

テキスト
参照教理問答

使徒言行録 3章1～10節
子どもカテキズム 問30
ウェストミンスター小教理問答 問30

〈聖書テキストの解説と黙想〉

【KEY1 聖書本文を語る】

〔STEP1〕 聖書本文を読む。

使徒言行録3:1～10をゆっくり声を出して、数回、読む。

〔STEP2〕 この個所のテーマは何か？

イエス・キリストは、ご自身の名によって働く者たちに、ご自身の業を現わされる。

〔STEP3〕 それをどのように展開しているか？

十二弟子であったペトロとヨハネが神殿に上って行くと、生まれながらに足の不自由な男が彼らに施しを乞うた。ペトロが、イエス・キリストの名によって立ち上がるように言って、手を取ると、彼は躍り上がって立ち、歩き出した。神殿の境内で、彼が歩き回り神を賛美しているの、人々は驚いた。

【KEY2 神の福音を語る】

〔STEP1〕 この個所で神はご自身について何をあらわされたか？

イエスは、天に昇られた後も、ご自身の名によって働く者たちのために、働きを継続し、足の不自由な男を癒された。

神は、イエスの名による癒しのゆえに、賛美を受けられた。

〔STEP2〕 前後の章は、神について何と言っているか？

ペンテコステにおいて、エルサレムに留まっていた弟子たちに、目に見える形で聖霊が降った。聖霊に強められたペトロの説教をとおして、多くの人々が回心し、新約の初代教会が形成された。初代教会において、使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていた(2:43)が、今日の個所に記された出来事も、その実例と言えるだろう。足が癒された男を見て驚いた人々に向かって、ペトロは、イエス・キリストを証しし、イエ

スの名を信じる信仰が彼を癒したことを語る。

〔STEP3〕 聖書全体をとおしての神の働きに、この個所はどのように関係しているか？

神は、ご自身の救いの計画を実現するために、約束してこられたキリストをお与えくださった。キリストは、地上での働きを終えて、天に昇られたが、聖霊を通して地上での働きを継続され、ご自身の王国を進展させられている。それは、キリストが再び来られる日まで続けられるお働きである。

【KEY3 子ども達の信仰と生活のために語る】

〔STEP1〕 この個所に登場する当時の人々の必要は何だったか？

十字架で死なれ、天に昇られたイエスこそ、キリストであり、天に昇られ、目で見ることができなくなった後も、地上でのお働きを継続してくださっていることを知る必要があった。

〔STEP2〕 私たちの教会の子ども達に似たような必要があるか？

イエス・キリストは、約2000年も前におられた方であり、目で見ることができないので、自分たちが生きている現実に関わってくださるといふ実感がない。本当に困って自分ではどうすることもできない状況にあってなおイエス様が働いてくださることを知る必要がある。

〔STEP3〕 この聖書箇所「その時」から、私たちの教会の「今」へ橋をかける。

主イエスが天に昇られた後、使徒たちは聖霊を与えられて、力強くキリストを証しし始めた。かつて主イエスが病んだ者たちを癒されたのと同じように、イエスの名によって働く使徒たちがイエスの働きを継続する。使徒たちをとおして、天におられる主が、足の不自由な男を癒された。

現在の私たちの生活において、ここに記された出来事のように超自然的な奇跡を見ることは、

めったにないだろう。しかし、主は、ご自身の名のために働く者たちのために、今もなお地上での働きを継続してくださっている。この世で、力を持つと思われている「金や銀」のようなものはなかったとしても、もっと本質的な助けをお与えくださる。

学校でつらい経験をしているとき、あるいは困っている友達がいたとき、家庭で重荷を抱えて

いるとき、私たちに解決する力がなくても、主イエスは生きておられ、お働きを継続してくださっていることを思い起こして、心を高く上げよう。主が祈りに応えてくださることを期待して、私たちは祈り続けることができる。

(テモテ指導者訓練「聖書の説教」モジュールを参考に項目を立てました)。 (大西良嗣)



テキスト 使徒言行録 3章1～10節
子どもカテキズム 問30

〔単元のねらい〕

今日の箇所は、聖霊が与えられた使徒たちの働きの具体的な例として考えることができます。単に、使徒たちの働きが立派であったとか、不思議な奇跡が起こったということで終わらせず、「ナザレの人イエス・キリストの名によって」行われた働きであることを確認したいと思います。聖霊によって強められた使徒たちは、キリストの働きを継続したのですが、そのキリストは、今も生きて、働きを継続してくださっています。

イエスの名によって立ち上がり、歩きなさい

〔序〕

イエス様のお弟子さんたちは、ペンテコステのときに聖霊を受けましたね。それによって、力を与えられて、イエス様のことを多くの人に伝えました。そして、多くの人がイエス様を信じて、教会ができました。聖霊なる神様が、力強く働いてくださっている様子がわかります。

〔物語り〕

ある時、イエス様のお弟子さんだったペトロさんとヨハネさんが、神殿にお祈りをするために行きました。たぶん、エルサレムにいる間、毎日、ユダヤ人の習慣に従って、神殿にお祈りをしに行っていたのだと思います。

この日も、午後3時のお祈りの時間に合わせて、神殿に行きました。

すると、「美しい門」という神殿の門のそばに、足の不自由な人が運ばれてきました。この人は、生まれたときから足が不自由で歩くことができませんでした。毎日、誰かに、家から運んでもらって、「美しい門」のところに置いてもらっていました。まったく歩くことができないので、荷物のように置いてもらっていたのだね。そして、そこで、「お金をください」と通りかかる人に、お願いをして過ごしていました。物乞い、乞食などと呼ばれるような生活をしていました。自分では働くことができないので、こうして通り過ぎる人に

お金をもらって生活するしかありません。とても、つらかったことと思います。無視されたり、バカにされたりすることも多かったことでしょう。

この日も、そんなふうにして、つらい思いをしながらも、お金をめぐんでもらうしかないと思っていたのではないのでしょうか？ ペトロさんとヨハネさんが神殿の中に入っていくのを見て、「どうぞお金をください！」と声をかけました。

ペトロさんとヨハネさんは、立ち止まって、この人のことをじっと見ました。そして、「わたしたちを見なさい」と言いました。この人は、「よかった、何かもらえそうだ」と思って、二人のことを見つめていました。

すると、ペトロさんが言いました。「わたしには金や銀はない」。

何かもらえると思ったのに、「お金はない」って。けれども、続けて、ペトロさんはこう言います。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」。

こんなことを言われて、「何て無茶なことを言い出すのか！」と思ったかもしれません。けれども、ペトロさんは本気です。この人の右手を取って、立たせようとします。

「ま、まさか、そんなこと」と思ったことでしょう。けれども、ペトロさんになされるがまま、この人は立ち上がりました。すると、これまで、細

くて弱くて、力が入らなかった足が、たちまち、しっかりとして、躍り上がって立ち上がってしまいました。もう、うれしくてたまりません。歩き回ったり、踊ったりして、神様を賛美始めました。

ペトロさんとヨハネさんも、喜んだでしょうね。三人は一緒に神殿の中に入って行きました。この人は、歩けたことが、うれしくてうれしくて、歩き回って、神様を賛美しました。

それを見た人たちも、驚きました。彼は、毎日、「美しい門」のところに置かれて、施しを乞うていましたから、顔を憶えている人も大勢いたでしょう。「あの人は、『美しい門』のところに、いつも置かれていた人だ！」と気づいて、ビックリしました。歩けるようになるとは、とても思えなかったような人が、今、目の前で歩いているからです。

【結び】

ペトロさんは、「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と言いました。イエス様は、このとき、すでに、天に昇られた後でした。けれども、イエス様は、天で、王様として、今も、この世界を支配されています。ですから、天にいらっしやっても、この世界でのお働きを続けていらっしやいます。ペトロさんやヨハネさんのように、イエス様のために働く人た

ちをとおして、イエス様ご自身が働いてくださっているのだね。ですから、ペトロさんやヨハネさんに特別な力があつたわけではなくて、イエス様ご自身が、この人の足を癒してくださいました。

イエス様は、今も、天に生きていらっしやいます。王様として、この世界を治めていらっしやいます。私たちは、イエス様のことを目で見ることができませんが、イエス様のお働きは、この世界でも続けられています。

私たちが、イエス様のために働こうとするとき、イエス様は私たちをとおして、ご自分の働きをしてくださいます。ペトロさんやヨハネさんが、「金や銀」を持っていなかったのと同じように、私たちも、特別な力やお金などは持っていないかも知れません。けれども、イエス様は、私たちを通して、ご自分の働きをしてくださいます。学校や家で、だれかが困っているとき、悲しい思いをしているとき、私たちは、どうしたら良いかわからなくなってしまうかもしれません。そんな時、イエス様に祈ってみてください。どうしたら良いのか教えてくださるようになります。イエス様が助けてくださるようになります。イエス様は私たちにも聖霊を与えてくださっていますから、私たちにも知恵を与え、勇気、力を与えてくださいます。そして、私たちにはどうすることもできないことのために、イエス様ご自身が働いてくださいます。 (大西良嗣)

【今週の暗唱聖句】 使徒言行録 3章6節

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。

ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」



〈ねらい〉

イエスさまは、私たちが求めていること以上に、素晴らしい恵みの中へと、立ち上がらせてくださるお方であることを知る。

〈展開例〉

・おはなしのヒント

「美しい門」と呼ばれる神殿の門に、生まれつき足の不自由な男が座って、施しを乞うています。男は、足が不自由であるがゆえに、自分で立つことも、働くことも、生きていくこともできません。ただ神殿の門を通りすぎる人々からいただくものによって何とか命をつなぎとめることができたのです。男は、美しい門を見ながら、癒されることもない病のゆえに、身も心もボロボロになった自分の姿と見比べていたことでしょう。

そこにペトロとヨハネがやって来ました。彼らは、お医者さんではありません。立派な病院に連れて行って善い治療を受けさせてあげるほどのたくさんのお金を持っていたわけでもありません。そういう意味では、ペトロたちは男の求めに対して、ちゃんと応えることはできなかったのです。男はがっかりしたかもしれません。この人たちに施しを乞うただけ無駄であったと……。

しかしペトロたちには持っているものがありました。それはお金や食べ物よりもっと素晴らしいものです。それは「ナザレの人イエス・キリストの名」です。「名」というのは、その人の名前だけではなく、イエス・キリストの存在そのものをあらわす言葉です。「イエスさまがあなたにしてくださいました素晴らしいことがあります。そのことを受け入れてください。信じてください。そのときに、あなたは自分の惨めさを見続けながら生きなくてもよいのです。神さまに愛され、救われた人間として立ち上がることができます」。

男が切に求めていたものは、生まれつき不自由

な足が癒され、立ち上がることができるようになるということでした。そうすれば、毎日、物乞いをしなくて済む。自分の力で立ち上がって、働いて収入を得て、何一つ困らない生活をするができるだろうと考えていたのです。

でも、ペトロたちが、あなたに与えると言ってきたものは、「イエス・キリストの名」であったのです。ペトロは右手を差し出し、この男を立ち上がらせます。そして男は、イエスの名によって、しっかりと地に足を着けて、立ち上がることができました。願いどおり、足が癒され歩くことができるようになったのです。

でもそこで起こったことは、単なる体の癒しだけではありませんでした。「歩き回ったり踊ったりして、神を賛美し」（使徒3:8）とあるように、男はただ歩くことができるようになっただけではなく、イエス・キリストの名のゆえに神を賛美することができる人間として立ち上がることができるようになったのです。ここに体の癒しに勝る本当の奇跡が起こっています。

教会に通い、礼拝を捧げ、イエスさまのことを信じることによって、自分の求めたものがすべて与えられるとは限りません。けれども、イエスさまは、お金やどんな美しさにも勝る素晴らしい恵みをあなたに与えてくださいます。どんな病や困難な壁を前にしても、ずっとしゃがみ込んでしまうことはもうないのです。イエスさまが、あなたの手を取って立ち上がらせてくださいます。

〈祈り〉

体も心も小さい私たちです。自分を強く大きくする力もありません。でも、そんな私たちにイエスさまを与えてくださいました。イエスさまが、しっかりと私の手をつかんでくださるその力に、感謝をしながら歩んでいくことができますように。

〈展開例〉**1. 今週の暗唱聖句を一緒に読みましょう。**

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

- ・これは誰が誰に言った言葉でしょう。
- イエス様の弟子のペトロさんが、足の不自由な男の人に言った言葉です。
- ・「金や銀はないが」の意味は何ですか。
- お金になる高価な物はないが、ということ。
- ・「持っているもの」とは何でしょうか。
- 「イエス・キリストの名」による聖霊の力。
- ・「イエス・キリストの名」によると、なぜ立ち上がり、歩けたのですか。
- イエス様はこのとき天に昇られた後でしたが、弟子たちは「イエス・キリストの名」を使うことによって聖霊の力が弟子たちをおして働きました。イエス様が生きた時と同じ業でした。

2. 説教を分かち合う。**2-1. 弟子のペトロさんとヨハネさんのことを考えよう**

- ・今日のお話で、ペトロさんとヨハネさんはどうして神殿に行きましたか。
- お祈りをするために神殿に行きました。ユダヤ人の習慣に従って、毎日午後三時にお祈りをしていました。
- ・ペトロは足の不自由な男の人に「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言いました。その後、その男の人はどうなったでしょう。
- 生まれながらにずっと歩けなかったのに、足やくるぶしがしっかりして、歩きだしました。周囲の人も驚きました。
- ・ペトロさんたちは、金や銀ではなく、「イエス・キリストの名」による病気の癒しを与えました。ペトロさんたちが、男の人に一番伝えたかった

のは、なんでしょう。

→イエス・キリスト。イエス様が今も私たちと共にいて、私たちを愛しておられることを一番伝えたかった。

2-2. 足の不自由な男の人のことを考えよう

- ・足の不自由な男の人は、ペトロさんたちに声をかけました。どういう気持ちで声をかけたのでしょうか。
- 何か施しがほしい。生きるために少しでも何か物を恵んでもらえないかという気持ち。
- ・「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言われて、男の人はどう思ったのでしょうか。
- はじめは何か物をもらえんと思っていて、残念に思ったかもしれませんが、でも次の瞬間に生まれてからずっと歩けなかった足が治って、とても驚き、信じられないぐらい、うれしい気持ちになりました。心から神様に感謝しました。

2-3. 私たちのことを考えよう。

私たちの周りでも困っている人や悩んでいる人がいるときがあると思います。そんな時、その子のために何かしてあげたい、その子に喜んでほしい、と思うことがあるでしょう。でも、自分はお金もないし、その子に役に立つこともできない。そういう時、苦しいですね。

でも、今日のペテロさんたちのように「イエス・キリストの名」によって、祈ってみてください。私たちを愛していてくださるイエス様がきっと助けてくださいます。どうしたら良いのか、聖霊なる力が働いて、その祈りに答えて教えてくださるはずですよ。

3. 暗唱聖句（敗者復活戦）

先週、暗唱聖句をうまくいえなかった子たちが、全部言えた！ という喜びを体験させて上げる。ご褒美の品々を用意する（品々は教師の本気度が伝わるようなものにする）。